

【Zigzag-memo No18】 不惜身命「たとえ、火の中、水の中」

私は会社現役時代 41 年長の間には様々な性格の上司に仕えて来た、対応に二つのパターンを駆使した。

(前) 一つ目は、その職責に絡む諸課題について、息のかかった配下のイエスマンのみに情報提供するという、いわゆる派閥的なムレ（群れ）を作る人に対しては、また、対象広く、^{や き も ち ねいかん}マンキタゲ佞奸根性、胡散臭い人に対しては鉄砲的態度を取った。

(後) 二つ目は、その職責に絡む諸課題について、揺れ動く率直な心情を交えて公平に吐露・情報提供し、部下に素直に協力を乞う人に対しては、また、対象広く、誠心誠意・実直に人に対しては、不惜身命的態度を取った。

私は、ユニバーサルサービス提供を義務付けされている電力エネルギー産業に奉職していたが、社会インフラ企業従事者の使命において、停電による供給支障事故が最大の問題となる。自然災害による配電線・送電線・発電設備の被災や車衝突による設備被害に係る突然の停電（供給支障事故）は、社会活動に甚大な迷惑・損害を齎す。したがって、迅速復旧（復電）のために、関係部門の社員は夜間や休祭日の区別なく、いわゆる私的時間帯にも係らず容赦なく呼び出し（出社）を厳命（緊急出動要請）された。

私のその時のこちら側の対応は二分化した。

前者の上司に対しては、仮病とか、親族の不幸とか、飲酒してしまったとか、いずれにしても、“腹背”を以って協力しなかった、そういう命令から故意に逃げた、管理職になってもやめた。もちろん、私一人が出社しなくてもそれなりの社員は出社した。要するに私の細やかな抵抗であった、そうしないと納得しなかったのである。また、「面従腹背と馬耳東風」は私の最高の反撃武器と思い、不徳の上司のみならず同僚にも巧妙に使った、恨み・つらみの仕返しの行動化であった、対人関係に広く応用した。現役時代の私は一度も上司に口ごたえ（抗弁）した記憶はない、同僚とも仕事上の口喧嘩は一度もない、しかし、積もるストレス解消はそのような対応が細やかな報復であった。しかし嘘つきがバレたら即刻懲罰委員会に掛けられただろう。

他方、後者のような人には「**24 時間 365 日、たとえ火の中、水の中**」であった、私的事情だとか、休祭日だとか、そんなことは厭わ^{いと}ない、嫌がらない。「時・空に色なし、時・空に境界なし」を是とする最優先の行動化であった、葉隠武士道精神の覚悟を持ったものだ。また、そのような上司の苦悩が読めた時には、もちろん指示命令されるまでもなく、上司の抱える諸課題に対しては先取り・先読み・先回り^{昔 だいさん びげん}で——「寛大三美言」精神で対応した、今で言う付度 100%の発動である、いわば先制攻撃である。私は就寝時間そこそこに翌日には書面に書き付けた課題解決策を間髪入れずに提示・提案するという行動を取った。そのような時は、普段目立たぬ人が素晴らしい提案をする同僚もいた。このような心が起動する職場においては、一人ひとりの自己発励から集団同期に発展することを実感した。75 歳になってもこの心は失せてたくない意志である。しかし、精神疾患に陥り、サラリーマン戦線から離脱する者はどの職場にも一定数いたが、栄枯盛衰、下剋上はやむを得ないものなのだ。

そのような使い分けは私自身が管理職になってもその上司にも発動・実行した。攻守交替・新陳代謝・栄枯盛衰は世の常なのだ若い頃から理解していた。もちろん、定年退職後の地域コミュニティ活動においても、趣味の何とか会に入会していた時も、上記、前者と後者を使い分けて上手に立ち廻り回った。気付かないのは、私の気持ちを発令されたその時の上司とか、何とか会の長であった。

(end)